

戦争をやめよ！

2022/3/6

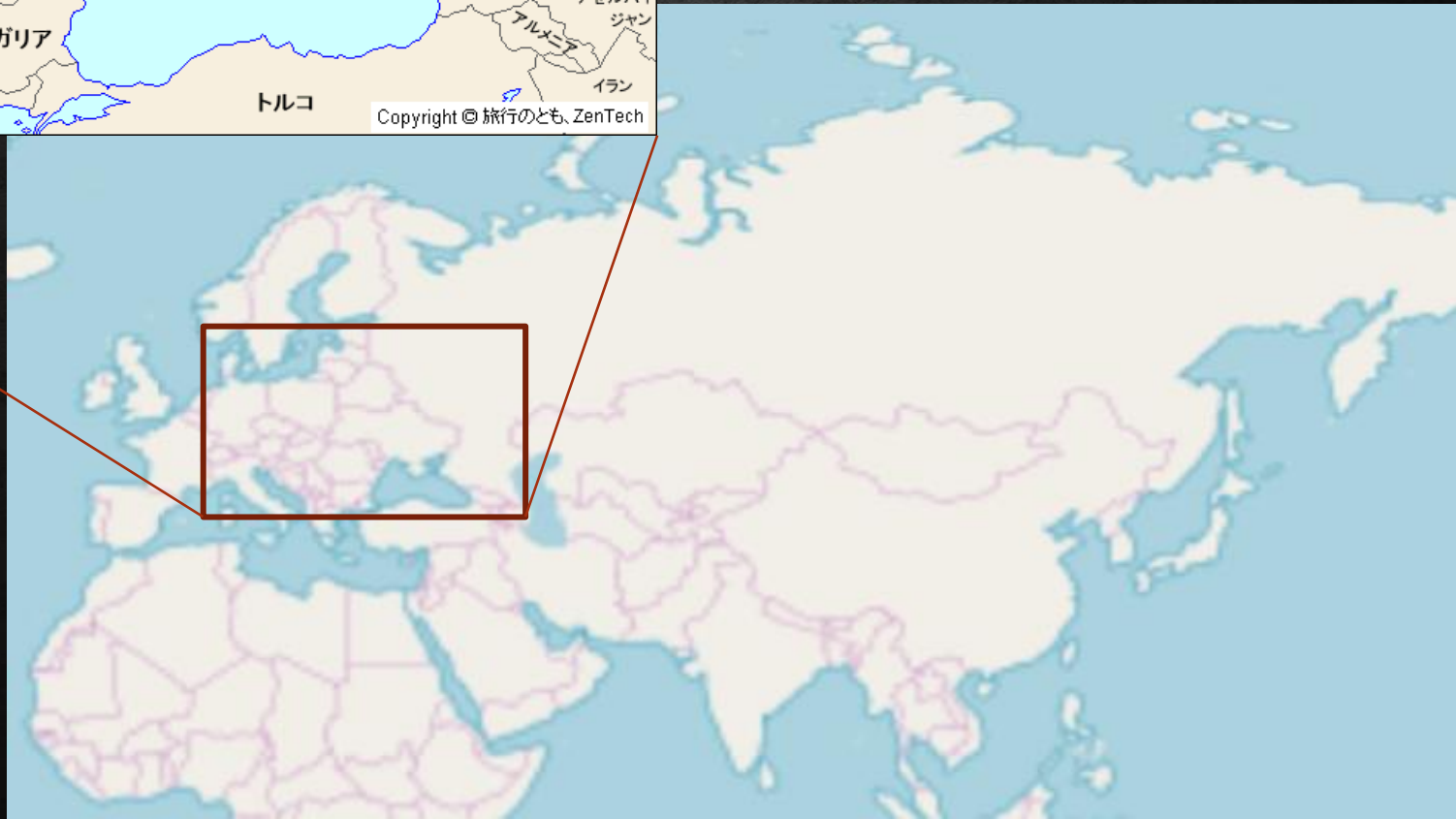
ロシアのウクライナ侵攻

- 大方の予想に反して行われた武力侵攻
 - 数ヶ月前から隣国ベラルーシやロシアのウクライナ国境付近に軍隊を駐留させ、軍事演習などを行っていた
 - 欧米諸国は対話によって武力侵攻をとどめようとしたが、不調に終わった
 - 2月24日ロシアはウクライナに武力侵攻を開始した
- 3月6日現在終結への見通しは立っていない
 - ロシアは数日で陥落させるつもりだった
 - 西側諸国(日本含む)は経済制裁で圧力をかける
 - 停戦に向けた協議が行われているが結論には至っていない

ウクライナと周辺国の地図

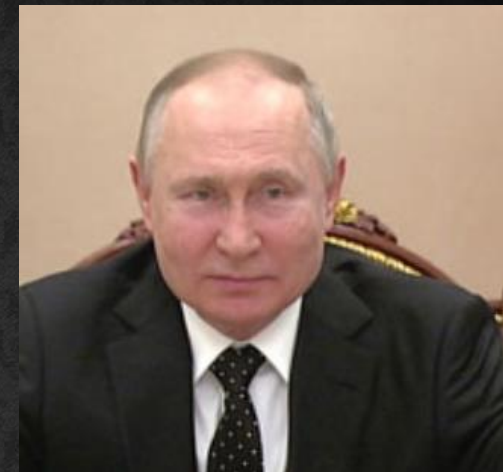


ウクライナ



プーチン大統領(ロシア)

- 旧ソ連国家保安委員会(KGB)出身
- 2000～08年・2012年～現在
 > 20年近い長期政権
- 「強いロシア」再建(ソ連の復活?)を目指している
- 核兵器使用をちらつかせて世界を脅している



ゼレンスキー大統領(ウクライナ)

- キエフ国立経済大学で法律の学位
- 素人が大統領に当選して奮闘する政治風刺ドラマ「国民の僕」で大統領役を演じ、2019年に実際に大統領となる

戦争

- 定義

- 集団間の武力による闘争のこと
- 互いの命・財産・権利などを奪い合う行為

- 原因

- 領土拡大・思想的政治的野望・経済的困窮等
- 宗教は原因ではなく口実として利用されてきた

- 歴史

- 人類の歴史は戦争の歴史である
- 特に20世紀は「戦争の世紀」と呼ばれる
- 日本もかつて朝鮮半島や中国などを侵略した
- 21世紀になっても核兵器はなくなり、世界中に武器が溢れている！

聖書の教え

- 戦争は重罪(十戒)
 - 「殺してはならない。」出エジプト20:13
 - 盗み・偽証・強欲などを伴う
 - 神の作品である人間が互いに殺し合う、創造主を最も悲しませる行為
- 神は平和の神である(山上の垂訓)
 - 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」マタイ5:9
- ユダヤ人も戦争しているが…
 - 基本的に神がアブラハムに約束された地域(カナンの地)を守るための戦いであり、侵略戦争はソロモンの時代ですえ行われていない

戦争は続く

- 終末の予兆

- 「戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。」マルコ13:7-8

- 終末に起こる戦争

- 「すると、火のように赤い別の馬が現れた。その馬に乗っている者には、地上から平和を奪い取って、殺し合いをさせる力が与えられた。また、この者には大きな剣が与えられた。」黙示録6:4

イザヤ書2章2～5節

終わりの日に／主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち／どの峰よりも高くそびえる。国々はこぞって大河のようにそこに向かい／多くの民が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。

やがて戦争は終わる

- 主なる神が唯一の頭となる
 - 多くの指導者がいることで世界は混乱している
 - 「主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち」
- 主なる神が導かれる
 - 様々な理念や思想があることで対立が起こる
 - 「主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」
- 主なる神が裁き、戦いを終わらせる
 - 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。…国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」

共に祈りましょう

- 戦争がエスカレートせず、平和的に解決されるように
- そのために、指導者たちに自制と知恵と愛が与えられるように
- 危機的状況にある教会・クリスチャンが守られ、主に用いられるように
- 大切な命ができるだけ失われることがないように
- 戦火に苦しむ人々の心に慰めと平安と希望が与えられるように